Thermik2021

九州大学航空部

Thermik 2021(vol33)

1　巻頭言　主将　阿部　美咲……5

2　ごあいさつ　部長　東野　伸一郎……6

3　ごあいさつ　監督　牧田　厚雄……7

4　部員より……9

○航空部に入って	工学部１年	青木　海成
○入部動機と抱負	工学部１年	江渕　大千志
○二兎追うものは三兎得る	理学部１年	大渕　慧陽
○航空部に入部するまで	工学部１年	小江　輝
○航空部との出会いとその後	工学部１年	下新原　統也
○グライダーとの出会い	経済工学部１年	杉原　匡紘
○「空の世界」へ	工学部１年	田所　穣
○航空部に入ってみて	工学部１年	中野　嶺
○パイロットのきっかけと目標	工学部１年	山口　侑樹
○ドルフィン	工学部１年	渡辺　良祐
○航空部のもうひとつの魅力	共創学部２年	長田　百合香
○二年目	農学部２年	亀田　優花
○コロナ禍での航空部活動	工学部２年	難波　優希
○今年を振り返って	工学部３年	青木　俊樹
○助けられた１年間	工学部３年	阿部　美咲
○空という魅力	工学部３年	善甫　優晟
○今後の目標	工学部３年	望月　啓世
○3 年間の航空部	工学部３年	矢野　智幸
○私の４年間、そしてこれからの九大航空部	法学部４年	河野　巧
○最終回　もっと...飛ぼう!!	理学部６回	松村　彩郁

5　会計報告　会計　難波　優希……23

6　活動報告……24

7　活動風景@2021……26

8　編集後記　　編集　青木　海成……30

巻頭言

OB・OG の皆様，いかがお過ごしでしょうか．今年もまたテルミックを通じて皆様に航空部員の頑張り，一年の活動の様子をご報告させていただきます．

コロナが終息の兆しをみせない中で迎えた新歓活動は主に 4,5 月，個別対応は 12 月まで及びました．春期は体験搭乗や教室ガイダンスをはじめ，新入生たちに活動の内容について部での金銭事情も含め例年よりも詳細に説明しました．昨年のコロナ下での勧誘活動の反省を活かすとともに丁寧な対応を心がけた結果，10 人もの新入生を迎えることができました．

新一年生とともに順調に始まるかと思えた活動ですが，5, 6 月はコロナ情勢が厳しくなり，合宿を実施することはかないませんでした．そんな中でも訓練が再開した時に備え，zoom や skype といったオンラインツールを用いて学科を行い，上回生は新入生の教育に力を注ぎました．合宿に関しては段階的に許可が降りるようになり，7,8 月は宿泊を伴わない日帰り訓練を，9 月から 12 月は感染対策に十分気をつけながらの通常訓練を実施することができました．

合宿では上回生の人数に比べて新入生のそれが上回る状況となりましたが，これまで大きな事故を発生させることなく安全に実施することができています．数回にわたった新人合宿では搭乗要領，索付け，翼出しなどの教育を慎重に繰り返し行い，ヒヤリハットが生じれば適宜対策を講じて安全第一を徹底しました．新入生達自身のやる気も相まって，早い段階で滞りなく諸作業をこなすことができるようになっていく様子は目を見張るものがありました．今ではリトカー教習や機体係教習にも取り組む新入生も多数おり，部員一同熱心に訓練に取り組んでおります．

2021 年の一大イベントの一つとして記憶に新しいのは九大所有の機体 JA2509 の整備です．これまで整備の大部分をお任せしていた NPO の河邑さんが不在となり，手順などの引き継ぎが十分ではないなか行われた整備は一筋縄ではいかないものでした．整備士の手配や整備場所の確保など初めての作業の連続で，最も部員が団結したイベントの一つといえるでしょう．9 月に伊都キャンパスの野外駐車場で始まった確認作業から，11 月の椎木講堂ガレリアでの翼根クラック積層作業に続き，久住での重心位置測定や舵角測定を経て 11/23 に耐空検査を行い，無事一連の作業を終了することができました．

最後になりましたが，以上の活動は OB・OG の皆様のご支援のもとに行うことができたものと認識しております．この場を借りて部員一同，感謝申し上げます．来年度も変わらないご支援を何卒よろしくお願いいたします．

九州大学航空部　主将　阿部 美咲

～部長先生より～

ごあいさつ

九州大学航空部　部長　東野　伸一郎

皆さまお元気でお過ごしのことと思います．今年も例年よりもやや遅めですが，テルミックをお届けする季節となりました．ご存知の通り，夏以降にコロナ騒動はやや収まりをみせ，航空部の活動も再開されて少し安堵していたところですが，残念ながら今年も対面での OB 会は開催できませんでした．その代わり，新たにオンラインでの懇親会が開催されましたが，参加された皆さま，いかがだったでしょうか．対面に勝るものはないとは思いますが，少しでも現役学生の顔と名前を覚えていただけましたでしょうか．このテルミックが皆さまのもとに届く頃には，3 年生の矢野君の JCAB の試験も終了しているはずです．年明けから再び騒動が大きくなり、残念ですが七大戦も中止が決定されました。全国大会には、今年も九工大チームが（OB が購入した!) ASW19 で出場の予定ですが、学連本部ではやきもきしながら感染状況の推移を見守っている状態かと思います。

このような状況ではありますが，明るいニュースもたくさんあります．まず今年は 10 名もの 1 年生の入部がありました．昨年に続き，今年も SNS などをメインとした勧誘だったようです．昨年得たノウハウが生きたのかも知れませんし，現代の若者は，対面による勧誘よりも SNS などによる勧誘の方が受け入れやすいのかもしれません．今年も新勧コンパを開ける状態ではありませんでしたので，私も先日のオンライン OB-現役懇親会で初めて新入部員の学生諸君の顔を見たところです．ぜひ 4 年間続けていってほしいと願うとともに，さらに来年も部員数を増やすことができれば，各自の負担も減っていき，良いスパイラルに向かっていけるのではないかと期待しているところです．次に，昨年教育証明を取得された航空部 OB(86 年卒)の中島康さんには，航空部コーチにご就任いただきました．少なくとも私の知る限り，九大航空部が監督とコーチの 2 名体制でご指導いただけるのは初めてのことではないかと思います．牧田監督とともに，九大航空部の発展にご尽力いただけるものと期待しております．さらに，先にも少し触れましたが，3 年生の矢野君が JCAB の自家用操縦士実地試験を受験します．私の講義をサボって受検するのですが(!)，必ずや合格してくれるものと確信しています．先日のオンライン懇親会でも，今後，彼に続くであろうライセンス取得希望者支援のための支援金のお願いがされておりました．OB・OG の皆様には心より感謝申し上げますとともに，今後とも変わらぬご支援を頂ければ大変幸甚に存じます．

それでは一日もはやいコロナの終息ともとの日常への復帰，そして安全なフライトを祈念するとともに，OB・OG の皆様方のご健康と益々のご発展を祈念して筆をおきたいと思います．

～監督より～

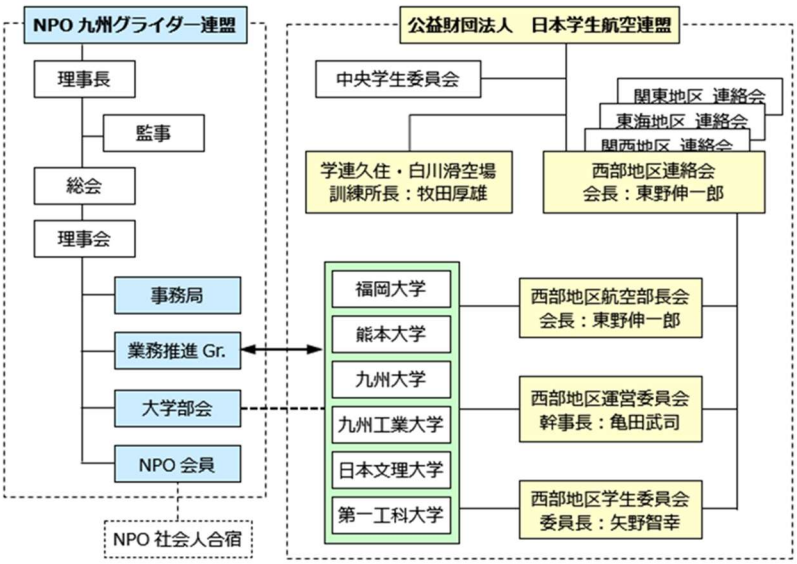
ごあいさつ

九州大学航空部　監督　牧田 厚雄

九州大学航空部ＯＢ/ＯＧの皆さま、お元気でお過ごしのことと思います。昨年度に引き続き Thermik をお届けできること並びに昨年末の航空部 OB 会 Web 懇親会を開催できましたことは、皆さまと現役学生の繋がりの維持として、非常に喜ばしいことだと思います。私事となりますが、実は今年の 4 月で早いもので九大航空部監督として丸 10 年が経過することになります。この間、監督として航空部に如何ほど貢献できたのかは？？？ですが、何点かトピックスをご紹介させていただきます。

- 九大としての事故、重大インシデント等の発生がゼロでした。2021 年は秋よりグライダー界では大変残念な墜落・死亡 2 名を含む 6 件の事故等が連続発生しました。「安全なくして学生航空なし」は学連のスローガンですが、今後も安全第一が基本です。
- 自家用操縦士が誕生しました。2018 年 1 月、白川滑空場で CAB 実地試験実施。立ち合い教官として堤君（現在、院Ｄ1）の合格を見ることができました。なお、この原稿がでるころには結果が出ていますが、3 年矢野君が CAB 実地試験を 1 月に白川で受験します。
- 2019 年 2 月の七大戦では 7 年毎に廻ってくる主幹校として、周回タスクの大幅改定，規則変更提案を含めて大会を無事運営できました。団体では 4 位の成績でした。
- 2020 年 10 月、航空部 OB(86 年卒)の中島康さんが、教育証明を取得されました。

ここで毎年の OB/OG の皆さまへのお願いです。OB 会は会員増加の方向で活動されると思いますが、現役学生への間接的支援として、NPO 九州グライダー連盟（http://q-glider.com/）及び公益社団法人日本滑空協会（http://www.japan-soaring.or.jp/）にご加入いただけばと存じます。前者は会員に学連カレンダーと方向舵が配布されます。後者は年 4 回発行の機関紙 JSA Info.が届きます。皆さまが会員になっていただくことにより、学連西部地区の運航



支援を行う NPO 九州の基盤（右図）が安定化されます。滑空協会は日本の滑空界全体の底上げに繋がるものといえます。どうぞ、ご検討いただけますよう宜しくお願い致します。

ここ 10 年の振り返り（総会より）

～部員より～

航空部に入って

工学部１年　青木　海成

はるばる群馬からわざわざ九州大学に入学した私にとって、部活・サークル選びというのはなかなか重要なことで、非常に悩んでいました。数ある部活・サークルの中でも私の目をひと際引いたのはこの航空部でした。というのも私は小さいころから空港に通うほど飛行機が好きで航空という文字が見えた時から、入るならここかなぁと思っていました。

入部してみると空港では見ることがあまりない滑空機の魅力に気づきました。私は結構重量級なので、こんなちっこいので飛ぶのかなぁと少々不安でしたが飛んでみたらいとも簡単に空へ連れていかれました。操縦席から見た景色もこれまた絶景でこれはグライダーに夢中になってしまう人もいるわけだと納得できます。その分かかる費用もかなり多いですがその価値はあると思います。私はあまりお金がないので頻繁に合宿等に参加することはできませんが、その分一回一回の訓練を大切にしていきたいです。

航空部は空を飛ぶということ以外にも書類の仕事や車の運転など幅広いスキルを身につけることができそうなので、そういった仕事にもどんどん挑戦してどうにか役に立つような人間になれるように頑張っていきたいと思います。

入部動機と抱負

工学部１年　江渕　大千志

私が航空部の存在を知ったのは、新入生歓迎活動の一環として行われていたグラウンドガイダンスに参加した時でした。展示されていた赤色の機体に惹かれて、このようなグライダーを制作する部活動なのかな、面白そうだなと思って話を聞きにいったのが始まりです。実際には、「このグライダーに乗って空を飛んでいます」とのことで、予想を遥かに超えてきました。当時の私にとってはあまりに現実味のない活動に怯えながらも、好奇心が恐怖心に勝り、後日体験搭乗をさせてもらうことにしました。体験搭乗を終えた直後の率直な感想は、「思ったより怖くなくて安心した」でした。正直、搭乗してキャノピーを閉められた後は怖くなって後悔すらしていましたが、上空まで登るとそのような負の感情はいつの間にか消え去り、上空からの圧巻の景色を感動しながら眺めていました。自分のフライトが終わり、その後も次々と発航していくグライダーを見ていたときに、あれに乗って空を飛んでいたんだという実感がようやく湧き上がり、高揚したのを覚えています。またグライダーの操縦

はもちろんのこと、発航準備も学生が主体となって行なっていることに感銘を受け、最終的に航空部への入部を決めました。
現 1 年生の 1 月時点で 5 回の合宿に参加し、ようやく合宿に慣れてきたかなというところです。フライトの方ももちろん技術的にはまだまだで、知識、経験は不足していますが、グライダーに乗って空を飛ぶという行為には良い意味で慣れてきているのを感じています。また、合宿運営のための仕事も少しずつできることが増えてきて、合宿を終えた時の達成感は回を重ねるにつれて高まっています。これからも航空部の活動を楽しみながら、初心を忘れず意欲的に取り組んでいきたいです。

二兎追うものは三兎得る

理学部 1 年　大渕　慧陽

僕が航空部に入部したきっかけは、九州大学に入学して 2 週間くらいだった頃、熊大合宿の体験搭乗に参加したことです。色々な事情があって 1 年の最初 1 ヶ月間はホテルに長期滞在しており、色々な不便のために生活のやる気がなくなっていましたが、新歓イベントには狂ったように参加していました。航空部、ハンググライダー愛好会、スキー部、体操部、などなど…。今までに経験のある種目も、そうでないものも参加しましたが、1 番インパクトが強くて、ハマっていく感覚が大きいのを感じたのが、同期の新入部員の江渕くんと参加した航空部の体験搭乗でした。(完全に蛇足ですが、体験搭乗時に前席で操縦する教官から、「この機体は動力がないから、位置エネルギーを運動エネルギーに変換して飛んでいるんだよ。」って言われたのが 1 番印象的です)

そんなこんなで入部した航空部ですが、自分で操縦して空を飛ぶ感覚はとても楽しいです。少しずつできることが多くなっていて、合宿に参加する度に成長や気づきを感じています。この文章が誰の目に届いているか完全に把握はしていないけれど、もし(大学に関わらず、)航空部に興味を持っている人が見ているならば、1 度見学や体験に参加して欲しいです。僕も、新しいものを見たいなくらいのつもりで体験搭乗に参加して、ハマり始めています。

追伸：文章を最後まで読んだら、題名が伏線回収になっていると思って読んでいた人にお詫びします。あんまり関係ないです。いや、全く関係ないのを適当につけただけでした。多分あと 5 回は Thermik 書くと思うので、vol1 はこのあたりで終わりにしま。

航空部に入部するまで

工学部１年　小江　輝

僕が初めて航空部の存在を知ったのは、入学して初めて九州大学伊都キャンパスに行き航空部について書いてあるビラを見たときでした。そのとき、もともとパイロットになりたいという将来の夢を持っていた僕は、航空部に入れば、その夢に近づけるかもしれないと考え、とても興味を持ちました。しかし面倒くさがりな僕は、航空部に入部したいという連絡をすることを遅らせてしまいました。すると５月からコロナによって航空部の体験搭乗が延期になり、オンラインによる学科のみとなります。それが９月まで続き、正直この時の僕は航空部への熱は冷めかけていました。そして１０月やっと体験搭乗の許可が下りたので、“とりあえず行ってみよう”というような気持ちで行ってみました。

いざ、先輩が運転してくださった車に２時間以上乗って九重まで行くと、そこには想像していた以上の大きさの滑空機があり、先輩がその滑空機に乗り込んでいる姿が目に入り、車を降りるとすぐに滑空機は空高くに飛び立ち、とても小さくなりました。これを自分も体験できると感じワクワクしていると、とうとう自分の番がやってきて滑空機に乗りました。離陸するときはジェットコースターのような感覚で少し恐怖感を覚えたのですが、時間がたつと慣れてきて周りを見られるようになりました、このとき見た景色は、自分がこれまで見てきた景色の中でどれよりも高いところからのもので、忘れられません。そのときこの滑空機を自分だけで操縦してみたいと思い、僕はこの航空部に入部したのです。

航空部との出会いとその後

工学部１年　下新原　統也

私は幼稚園にいた頃に帰省のために飛行機に乗る機会がたくさんありました。今は日本ではあまり飛んでいないサーブ 340B に乗っていましたが子供心ながら小さくてよく揺れたのを覚えています。私はその頃から飛行機という乗り物に興味を持ち、将来飛行機を操縦する仕事につきたいと思うようになりました。

その後九州大学に入学してから航空部の存在を知りました。グラウンドガイダンス ASK21 の操縦席に座らせていただき、すぐに興味を持ちました。4 月の最初に白川で体験搭乗をしたとき、ウインチ曳航の急激な加速に驚き、すごく景色が綺麗でワクワクしたのを覚えています。そして航空部に入部しましたが、そのときからコロナウイルスがふたたび流行り、はじめての飛行訓練が 8 月の終わりになりました。

初めて操縦桿を握って操縦したときは、その難しさに驚きました。速度を一定にして直線に

飛行することさえできなかったからです。直線飛行がある程度できるようになったら旋回の練習が始まったのですがエルロンとラダーの 2 つの操縦装置を同時に使うので最初の方は頭がこんがらがって大変でした。

今は最初の方と比べると旋回中のバンクと機首の安定が段違いになりました。これからは旋回の技術をもっと磨いていきたいと思います。また、最近の合宿で着陸、離陸の練習も始めました。離陸中は後ろに力がかかる中でエルロンを操作しなければならないので無駄な力をかけないようにするのが今の課題です。着陸は、今はまだアプローチラインに乗せるのに四苦八苦しています。発航回数は 21 回とまだ少ないですが早くソロに出られるように一回一回のフライトを大切にして多くのことを得られるようにしたいと思います。

グライダーとの出会い

経済工学部 1 年　杉原　匡紘

4 月 9 日、入学式の日。特に大学で学びたいことややりたい事がある訳でもない僕は、陰鬱な気分でスクリーンに映し出された部活動 PV を見ていました。その中に、白い飛行機が颯爽と飛んでいる映像が目に入りました。飛行機を自分で操縦するという日常生活ではまず見ない光景であり、僕に強烈な印象を残したのです。数日後、僕は運動部合同の部活動紹介会会場のグラウンドにいました。各部活がそれぞれの道具を展示し、勧誘する中、お目当ての航空部のブースにはばかでかいグライダーが堂々と鎮座ましまして(?)おり、すぐに見つかりました。「あの PV に出ていた機体が目の前にある！」と興奮しながら機体に近づいて細部を見たときの第一印象は、かっこいいと言うよりは、美しいという感じでした。機体番号も書かれており、お国の認めた機体に乗れる、と大喜び。そのまま体験搭乗の申し込みをして、数日後に今度は体験搭乗を行う白川河川敷の滑空場に向かうのでした。人生初のグライダーは、予想していたよりも強い加速と上昇角ですさまじい恐怖を感じ、感動とはちょっと違うものになりました。ただ自分が操縦するという魅力は何物にも代えがたいもので、恐怖や資金の懸念はどこへやら、入部を決めて今に至る、という訳です。

「空の世界」へ

工学部 1 年　田所　穣

大学に入ると高校とは違い、数多の種類の活動があるとは聞いていました。その中から、私は航空部に出会いました。最初に航空部を知ったのは、確か入学式で空を飛んでいる映像

を見た時でした。その時は航空部については微塵も知らなく、「空を飛ぶって凄いな～」という薄い感想でした。しかし、後日「自分で空を飛べたら楽しいだろうな」と思い少し興味が湧いたのでガイダンスに参加しました。そこでは「グライダー」など初めて聞くような単語が多く出てき、まさに未知の世界が広がっていました。今でも航空部の中では分からない単語によく遭遇しますが、だんだん色々と理解してきました。私はそのように純粋に空と自分の知らない世界に憧れて航空部に入りました。
入ってからはコロナもあり、夏くらいまでは合宿に参加することが出来なかったのですが、その後は少しずつ参加できるようになり、今までの発数は２０回くらいになりました。私は小さい頃から飛行機による移動をすることが多く、今までにも何十回と搭乗して空を飛ぶという経験はしてきましたが、グライダーはまた一味違いました。やはり一番大きな違いは自分の手で機体を操縦できることだと思います。発数を重ねるごとに自分の出来ることが増え、空を飛べるようになっている喜びは、旅客機では到底味わえません。いつか鳥のよう自由に飛べるようになったらいいですね。私は、そこに楽しさを見出してしまい、どうやら「空の世界」へと足を踏み入れてしまったようです。

航空部に入ってみて

工学部１年　中野　嶺

初めまして、航空部 1 回生の中野嶺です。私は九大に入るまで航空部の存在も知らなかったし、グライダーの存在すら知りませんでした。ですが、空が飛べるということで興味を持ち新歓活動に参加し、入部を決めました。いざ入ってみると、想像の何倍もお金がかかり、でも何十倍も楽しそうな部活でした。私はバイトに申し込む勇気がなく、お金を稼ぐ手段に困っていたのですが、現 2 回生の方にバイトを紹介して頂いて念願であった、バイトに入ることも出来ました。航空部に入っていなかったら、バイトに入ることもなかったかもしれないし、空を飛ぶ楽しさに触れることもなかったと思っています。

さて、活動についてですが、私はコロナのせいで開催出来なかった期間の合宿＋8 月の合宿以外全てに参加させて頂いています。今旋回の訓練を重ねているところですが、苦戦しています。上手く出来ないと、本当にくやしいとか、2000 円無駄にしてしまったとか思ってしまい、辞めようかなと考えたことも少しありました。でもいきなり上手いわけがないと友人のおかげで気付き、それ以降上手くいくことも多くなった気がします。そのような友人と出会えるのも、航空部の魅力の一つだと思いました。

今年の目標は機体係の取得です。現在九大航空部には機体係がいません。少しでも航空部に貢献したいし、自分の航空部にいる価値付けをしたいと思ったからです。それに加えて、教習で機体のバラシをした時に楽しいと感じたからです。いろいろ大変とは聞きますが、今

年中に取得することを目標にして、これからの航空部活動を頑張りたいと思いました。

パイロットのきっかけと目標

工学部１年　山口　侑樹

僕は幼い頃から飛行機に乗ることでした。小さい頃はよく空港に行ってパイロットの方に手を振ったりしていました。５歳くらいの頃には航空大学校の宮崎キャンパスに行ってフライトシミュレーターなどの体験をしたこともありました。それくらいの時期から将来はパイロットになって、沢山の国や地域に行ってみたいと思うようになりました。

僕が航空部にはったきっかけは部活の紹介 VTR です。最初は航空部という部活があること自体知らなかったのですが、動画をみて学生でも実際に機体に乗って操縦できるということを知りました。そこで、迷わず航空部に入部しようと決めました。航空部の活動は月１回ということを聞いて初めは意外と大変じゃないと感じたのですが、実際に訓練生として合宿に参加すると想像していたよりもずっと大変でした。合宿では様々な係や作業があり、多くの場所に気を配らなければなりません。しかし、僕は合宿の大変さや疲れよりもパイロットとして操縦できることの楽しさの方が上回っていました。合宿がどんなに大変でも頑張ることができます。僕の現在の目標は学生のうちにソロフライトに出て自家用免許を取得することです。そのために多くの合宿に参加し沢山の経験を積んでいきたいと思います。

ドルフィン

工学部１年　渡辺　良祐

石川県から福岡県へ引っ越してきて１週間、私は新品のスーツを身にまとい、椎木講堂へと足を踏み入れたのだった。入学式では各部の紹介ビデオが流れていた。サッカー部やバスケ部など中高からなじみのある部活動から、ラクロス部やアメフト部など、今まではなかった珍しい部活動などが紹介されていた。私は中高６年間、ソフトテニスに打ち込んでいたのだが、大学では心機一転、新しいことにチャレンジしてみようと意気込んでいた。しかしながら、スクリーンに映し出される映像はどれもピンと来ず、私は友達と世間話に夢中になっていた。そんな折、突如として空を飛ぶ白い飛行機の映像が始まったのである。私は友達の話そっちのけでその映像に釘付けになってしまった。航空部の紹介 VTR だった。

空を飛ぶことは私の子供のころからの夢だった。幼いころには父親と一緒に、航空自衛隊小松基地の航空祭によく足を運んでいた。ファンファーレが鳴り響く中、目の前で４基のブ

ルーインパルスが今にも飛び立たんとしている。けたたましい轟音でファンファーレが聞こえなくなると、それらは一斉に離陸した。8月の青い空を白と青の機体が縦横無尽に駆け回る。それはまるで大海を自由に泳ぐイルカのようだった。その一糸乱れぬ隊列飛行に、子供ながらにして興奮した。「こんな風に飛んでみたい！」父親の肩に乗った私はそう叫んでいた。

あれから十数年、いつしかそんな夢も忘れかけていた。しかし、入学式で流れた ASK21 の映像はそんな子供の夢を思い出させてくれた。空を舞う青と白のグライダーはまるで、かつて夢見た4匹のイルカにそっくりだった。「こんな風に飛んでみたい！」私は心の中でそう叫んだ。

航空部のもうひとつの魅力

共創学部2年 長田 百合香

コロナ禍で入学し、新歓やサークル見学を経験することができなかった私は、「航空部」という文字を見た瞬間、迷わず入部を決めた。もともと航空関係の仕事に興味があった私は、滑空機を自分で操縦するパイロットになれると知り、旅客機のパイロットになりたいという自分の夢に少しでも近づけるのではないかと感じたからだ。

初めて搭乗したのは体験搭乗。私は操縦桿を握らず、教官の前に座って景色を楽しむだけであった。旅客機が飛ぶ高度1万メートルとは違い、滑空機は約400メートルを飛ぶため、街を走る車や建物、市街地にある大きなドーム、山地の牧場の牛など、滑空場付近の街並みが上空から鮮明に見える。自分の操縦で自由自在に空を飛ぶことができると思うと、早く操縦桿を握りたくて仕方がなかった。しかし、実際の部活動は私が想像していたものとは大きく異なった。日が昇る時刻よりも早くから始まる訓練。寒い中で行われる整備。日中は、グライダーを一回発航させるごとに機体を人力で運んだり、点検をしたり、準備をしたりする。毎月行われる合宿は決して楽なものではなかった。全員でつなぎを着て草むらの中を走り回る合宿は、グライダーのパイロットになれるというキラキラしたものではなく、むしろ泥くさいものであった。最初は教官や先輩の動きについていくのに必死だった。しかし、訓練を重ねるごとに、次第に訓練の泥くささがもうひとつの航空部の魅力だと感じるようになった。一機のグライダーを飛ばすために教官や部員全員が全力で走りながら協力する雰囲気がいつの間にか好きになっていた。

「航空部ってどんな部活？」と聞かれると、飛行機を操縦できるという魅力を挙げることが多い。しかし何度も合宿を経験した今、航空部の一番の魅力は、グライダーを飛ばすために部員全員が奮闘する訓練の泥くささなのではないかと私は思う。

二年目

農学部 2 年 亀田 優花

こんにちは、農学部の亀田です。突然ですが、私は毎合宿の最初のフライトが怖いです。準備よし、水平に保持される機体。数秒の後ウインチに引かれてゆっくりと動き出す。徐々に勢いが増し、地面の凹凸でガタガタと揺れる。徐々に機首が上がり空に昇っていく。日常生活では感じることのない勢いに毎回押されています。上がりきってしまうと開けた視界で自分が動かした通りに動くグライダーはとてもやりがいがあります。初回の離陸時は怖いですが、それを上回る楽しさと達成感があるため私は空を飛ぶことが好きです。

また、今年は一年生がたくさん入ってくれました。今まで一度に多くの人と知り合うと個人の名前を覚えることをあきらめてしまうことが多かったです。しかし今回は数人ずつ接する機会があったことと何度も名前を確認することでほとんど完璧に覚えることができました。一つ下の学年は接する機会と期間が長くなるため、人数差に押されないように気持ちを引き締めて物事を確実に行っていきたいと思います。

グライダーは楽しいですが、楽しいだけでなく様々な場面で危険もあるためこれからも安全に気を付けて活動を続けていきたいと思います。

コロナ禍での航空部活動

工学部 2 年 難波 優希

航空部 2 年の難波優希です。コロナ禍のなか入学を迎えオンライン授業で大学にも行けない中一年が過ぎ、2021 年は世間もコロナ禍に順応し、十分な感染対策をとりながら大学に通う日も増え、やっと大学生になった実感がわいた年でした。

一方で航空部活動は合宿を必要とすることから依然として大学から制限を受けることも多く、中止であったり、日帰りで行ったりなど思うように活動がしづらかった一年でした。僕もそのことから合宿にはあまり参加できず、発航数も 30 発足らずと伸び悩んでおります。そんな中でも部に貢献できるようにドライバーや部会計など必要とされる仕事はなるべく引き受け、先日ソロドライバーとして運転させてもらえるようになりました。フライトに関しては少しずつ慣れては来ているものの、旋回などがまだ安定せず、体がこわばってしまうことが多く上空でリラックスして落ち着いた操作ができるように心がけたいと考えています。今年は少なくとも発航数が 50 発程度となることを目指して旋回や離着陸操作の練習など卒業までにソロフライトできるように頑張っていきたいと思います。さらに昨年は一年生に多く入ってもらえて、2022 年から 3 年となり部を引っ張る世代となりましたので仲間

と力を合わせて今年の活動も邁進していきたいです。

今年を振り返って

工学部 3 年 青木 俊樹

私は今年、全くと言っていいほど活動に参加できていませんでした。なので、書くことがほとんどありませんが、最近あったことを書こうと思います。

活動に参加できなかった理由ですが、コロナ渦による親の収入減から仕送りが月 3 万円減額となってしまったこと、ブランクが大きく、ほぼ振り出しの状態に戻ってしまったこと、視力の悪化によって航空身体検査に合格できないと思われることなどが重なってモチベーションが大幅に低下してしまったからです。最近になってようやくお金にも余裕が出てきたので、まずは眼科に相談して、身体検査にチャレンジしてみようと思います。

先日、およそ 2 年ぶりに 1 月九大合宿に参加しましたが、1 年生には存在を認知されているか怪しいところですし、私自身も 1 年生の顔と名前が一致していない人もいます。今後、練許を取得出来なかった場合は九大専属ドライバーとして人手が足りない時に合宿に参加しつつ、私のもう一つの趣味であるカメラで活動の様子を写していきたいと思っています。また、1 月 17 日、18 日で実施予定の CAB 合宿では同期の矢野が試験を受ける予定ですが、人員不足から班長と会計係を兼任するという前代未聞の事態となってしまいました。班長も会計も始めてなのに、オミクロン株の流行によってただでさえ少ないクルーが更に減る可能性もあって、受験生でもないのに今から緊張と不安で胃が痛いです。

この部活は、お金もかかるし書類仕事など飛ぶこと以外にも大量に仕事があって、飛ぶことが好きで入部したはずが、飛べないのになぜこの部活に参加しているのかと疑問に思うことが多々ありました。それでも、この部活でしか得られないものはたくさんあると思うので、自分に出来ることで部に貢献していけるよう精一杯努力していこうと思います。

助けられた 1 年間

工学部 3 年 阿部 美咲

主将に立候補してから長いようで短かった 10 ヶ月------といった内容をテルミックで書くのだろうと漠然と考えていましたが、今現在も 1 月合宿班長や七大戦の諸調整（そして大学での課題）に追われて、感慨深くなっている余裕がありません．追い立てられているようにも感じられますが、裏を返せば在学中最も航空部の活動が充実している一年、と同時に

多くの人に助けられた一年だったと思います。

LINE に加え chatwork というタスク管理兼チャットアプリを導入してタスクの管理はだいぶ楽になったものの、部内では新人教育、部会の進行、仕事の割り振りなど多くの仕事が舞い込み、特に仕事の割り振りに関してはうまくいかないことが多々あり悩むことも少なくありませんでした。そのような時に中島さんからアドバイスをいただいたり、「辛いかもしれないけど自分の思うようにやってみて」と上回生から声をかけていただいたりして何度も救われました。今も試行錯誤の中ではありますが、あと数ヶ月世代交代となるまでは後悔のないように役職を全うしたいと思っています。

最も航空部の活動が充実している、と冒頭に書きましたがフライトに関しても同様です。実際のフライト発数は去年から変わらないペースだったり、課題との兼ね合いで合宿不参加となったりと、これまでと相変わらずのように見えるのですが、合宿以外の場所でフライトシュミレーター・コンドルを用いた練習をすることが増えました。これは学習院大学航空部の八尾監督による zoom でのコンドルレッスンを受け始めたことによるものです。フライトシュミレーターによる訓練でも実際のフライト訓練と同じような効果が得られるのではないかという仮説のもと試験的に始められたレッスンですが、視点の切り替えや録画視聴,一時停止などコンドルの利点を最大限に使い、実際にはまだやっていない課目や苦手とする課題を集中的に教えていただきました。初めは「所詮シミュレーターなのでは」と少しの懐疑が残っていましたが、これまで自分からやったことのなかった偏流の取り方、横風着陸、ソアリングが自らの操縦で成功した時に効果があった、と驚きとともに実感しました。従来のコンドルがない状態では触れることがなかったであろうスピンからの回復訓練やサーマルに関する学科や模擬訓練にも着手でき、このような機会を与えてくださった八尾監督には感謝しています。まだコンドルは無料で使わせていただけるようなので、期限が来るまでは存分に苦手部分を克服していこうと目論んでいます。

今年ご報告できるような内容はこのくらいです．車の免許を取るのが 3 年の夏だったこともあり、残る車両系の係やドライバー教習は 1 年生を優先しています。幸い新入生たちは活動に意欲的で、今後もそのやる気に応えられるような体制を構築・維持していきたいと思っています。順調に部員数も増えてきているので、航空部の発展に貢献するにはどうしたらよいか最後まで考えていきたいです。

空という魅力

工学部 3 年 善甫 優晟

どうしても東京に行かねばならず、合宿に充てるハズの貯金を泣く泣く航空券に換えて飛行機に乗った。途中、富士山が見えるという機長のアナウンスを聞くと、隣に座っていた、

同じくらいの歳の女性がスマホをもってそわそわしていたので、席を変わった。写真を撮り終わると席を返してもらえるだろうと思っていたのだが、なんと彼女はそのまま窓際の席に座り続けた。内心たじろいだが、そういえば離陸前に隣で静かに泣いていたのを思い出した。誰かのもとを離れたのだろう。それから、機窓からの風景を楽しんでいる様子を見直すと、「まぁ楽しそうだしなんでもいいや」と思い直した。別離にあたって悲しい気持ちであっても、空はこうして人を惹きつけ、どうしようもなく魅力的であり続ける。ジェット機でなくとも、グライダーでもそれは同じだと、改めて感じた出来事であった。そんな引力を持つ空だから、また一から合宿費を工面することなど別に厭うことでもないだろう。

今後の目標

工学部 3 年 望月 啓世

最初に、このあとも多くの部員の執筆があるということで私の執筆は手短に失礼します。(文章書くのが苦手なだけです。(笑))

大学に入学してからの時間は早いもので、もうすぐ 4 年に進級しようとしています。

昨年は多くの 1 年生が入部してくれて今まで以上に九大航空部が賑わっております。それと同時に、上回生の人手不足により 1 年生が入部したての合宿は正直辛いものがありました。また、60～80 発程度で大体の人はソロに出ているため、自分も早くソロに出られないと、という焦りと後輩の教育、、、合宿に行くたびにこうすればよかったのではないかと自分を責めてしまい参加するのがしんどいときもありました。しかし、乗り越えてこられたのは仲良くしてくれる同期がいたからだと思っています。操縦技術について教えてくれたり、部活のことについてアドバイスを貰ったり本当に素敵な同期をもって幸せです。

昨日開催されました OB 会でも申した通り、もうすぐソロに出られるとのお言葉を教官方からいただきました。まだまだ未熟者なので一人で飛べるかとても不安ですが、飛行訓練だけでなく地上での学科やシミュレーター等によって自信をもって飛行訓練ができるようにしていきたいと思っております。また、今後のビジョンですが、私の目標は同期と互乗することなので、院を卒業するまでにライセンス取得を目指します！

最後に、これまでやってこられたのは OB・OG の方や教官、部活のメンバーのおかげ様です。九大航空部の発展を目指して、自分にできることは積極的にしたいと思っておりますのでこれからも温かく見守ってくださると幸いです。

3 年間の航空部

工学部 3 年 矢野 智幸

お世話になっております。矢野です。現在自家用操縦士取得に向け勉強中なので、内容はぺらぺらかもしれませんが、気軽に読んでいただけたらと思います。

とりあえず最初に思いつくのは、3 年生にわずかな時間でなってしまったということのみです。私が部活に入りたての 1 年生の時、3 年生だった溝渕さんの立場になってしまったのかと考えると、今の一年生からはどんな風に自分が思われているのだろうとやや心配になりますね。

来年から 4 年生になり（なれるといいね。）部活に割ける時間がどのくらいとれるかわかりませんが、お願いされればなんでも引き受けるつもりでいたいと思います。一瞬で 3 年生になってしまったのでたぶん大学院に入って卒業するまで（できるといいね。）ももっと一瞬かなと思われます。

そのためにも今できる最大限のことを部活に費やして、後輩たちがよりたくさん飛べて、より積極的に合宿に参加したくなるような運営を行っていきます。自分が手に入れた知識は後輩に積極的に教え、それを聞いた後輩がさらに自分で調べてもっと詳しいその後輩に教えというのを繰り返す・・・ことで SDGs の時代にあった航空部を作れるのではないかと考えます。それが目標です。

私の 4 年間、そしてこれからの九大航空部

法学部 4 年 河野 巧

今年は 4 年生ということもあり大学生最後の年、航空部最後の年でありながら、院試勉強のため殆ど部活動には参加できなかった。そこで、自分の大学 4 年間の航空部生活を振り返ってみたいと思う。

1 年の頃はグライダーのことなど存在も知らない程で、当然航空部に入るつもりもなかった。しかし、何の手違いか航空部に入部してしまうと、先輩方は漏れなく全員どう見てもやばい人達で、同期は夏の時点で 2 人という状態でのスタートだった。ところが、10 月になってファーストフライトを前席で迎えると、これが非常に楽しい。密かに憧れていた機械の操縦、飛び上がる瞬間に全身にかかる G、上空から見えたこれまで一度も見たことのない高さからの景色。何もかもが初体験で、興奮の連続。この部活は最後まで続けよう、そう決めた瞬間だった。

2 年のメインイベントは久住山滑だった。全国から同期が集まり実力を競い合う、はずだ

った。天気は生憎の雨の連続、競技フライトができたのは最後の 1 日のみ。しかも最終飛行の自分の番には天気も悪化、大会を成立させるためだけにほぼ無理矢理発航し、曳航中にクラウドイン。結果は酷いものだった。だが、雨天日には温泉観光をしたり、スマブラ全国大会を開催したりと、総合的には楽しいイベントとなった。同時に、同期、横のつながりの大切さを強く感じた出来事でもあった。

2 年の後半から現在にかけては、専ら後輩の育成に尽力した。特に 3 年春先には短い期間であるし、実質殆ど仕事はしていないが、主将の役職にも就いた。一つ下、二つ下の世代は人数も多く、優秀な人間が沢山いるため、彼ら主導で動かし、要所要所でアドバイスをするという形に落ち着いた。

結局この 4 年間では間の悪さもあり、何の係もソロフライトもできなかったが、この航空部での経験は自分の人生に新しい感性、見方を与えてくれたと感じている。4 年前に主要部員がわずか 5 人だった九大航空部は、今や西部地区を先導する部に成長したと言っても過言ではないだろう。今後は七大、そして全国を席巻する部活に成長することを祈っている。

最終回　もっと...飛ぼう!!

理学部 6 回 松村 彩郁

修士 2 年の松村彩郁です。今年度末に卒業して、就職する予定です。今回は航空部に入ってよかったことについて書きたいと思います。

1. 空を飛べる
   これだけで航空部に入っている価値があります。
2. いつも何らかの問題、トラブルが発生する
   悪い点に見えますが、学生のうちから問題解決能力を鍛えることができたと思います。
   また、ストレス耐性もつくかと思います。主将をやるのはおすすめ。
3. 教養が身につく
   力学、気象などの座学や機体、車両の整備など多くのことを学びました。
4. 教えてくれる、助けてくれる大人がいる
   教官をはじめとして OB さん方といった、助けてくれる大人もいる。
5. 車を運転する機会が多い
   意外と一般の大学生はペーパードライバーらしいです。
6. 話のネタになる
   各種自己紹介、就活の面接の際に航空部のおかげで話題には困りませんでした。
7. その他
   その他、多くのメリットがある。

今思いつくだけ挙げてみましたが、航空部はとても”お得”な部活なので部員の方々は途中でやめたりせずに続けることを強く推奨します。

最後に、自分は卒業しますがグライダーには未練があるので、(仕事の忙しさによるが)何らかの形で続けていきたい(もっと...飛ぼう!!)と思います

最後まで読んでいただきありがとうございます！

令和 3 年度会計報告

2021 年　12 月　31 日

九州大学航空部会計　難波優希

◎各口座残高(2021 年 4 月 1 日時点)

・ゆうちょ口座　408,753 円

・福銀口座　17,949 円

計　426,702 円

◎各口座残高(2021 年 12 月 31 日時点)

・ゆうちょ口座　977,539 円

・福銀口座　24,1594 円

計　1,219,133 円

◎令和 3 年度部会計収入一覧表　(2021/4/1～2021/12/31)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
部費	27,500	4,000	0	108,500	57,000	48,500	24,000	30,000	68,000	367,500
サークル助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	148,895	148,895
OB会助成金	300,000	0	0	0	0	0	0	0	350,000	650,000
借入金	47,884	39,600	0	22,869	23,454	11,938	29,700	44,794	8,864	229,103
各月合計	375,384	43,600	0	131,369	80,454	60,438	53,700	74,794	575,759	1,395,498

◎令和 3 年度部会計収入一覧表　(2021/4/1～2021/12/31)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ガソリン代	25,829	0	0	15,789	13,744	16,731	25,143	35,567	7,664	140,467
部車保険代	11,840	7,820	7,820	7,820	7,350	7,350	7,350	8,950	8,550	74,850
駐車場代	3,220	3,220	3,220	3,220	6,740	6,740	6,740	6,740	3,520	43,360
自動車税	0	84,600	0	0	0	0	0	0	0	84,600
部車整備費	18,645	0	0	0	0	458	83,725	0	0	102,828
高速代	0	0	0	7,080	9,710	9,630	560	0	0	26,980
借入金返済	0	0	59,925	48,108	19,000	31,042	0	30,000	20,104	208,179
その他	1,080	21,000	440	0	0	2,000	68,199	13,067	0	105,786
支出合計	60,614	116,640	71,405	82,017	56,544	73,951	191,717	94,324	39,838	787,050

2021 年度活動報告(4 月～12 月)

○　4 月

・新入生向けガイダンス、体験搭乗実施

・4 月九大合宿実施

○　5 月

・新人講習会オンラインで実施

・5 月九大合宿中止

○　6 月

・6 月九大合宿実施

○　7 月

・7 月九大合宿実施

○　8 月

・第 39 回山岳滑翔大会中止

・8 月九大合宿実施

○　9 月

・9 月九大合宿実施

・JA2509 の耐空検査整備実施

伊都キャンパスにて実施。先輩方も初の試みです。

○　10 月

・JA2509 の耐空検査整備実施

椎木講堂ガレリアにて実施。朝まで監視しているのは大変でした。

・10 月九大合宿実施

○　11 月

・九大祭期間を利用し合宿実施

・JA2509 の耐空検査実施

無事合格できました。

○　12 月

・12 月九大合宿実施

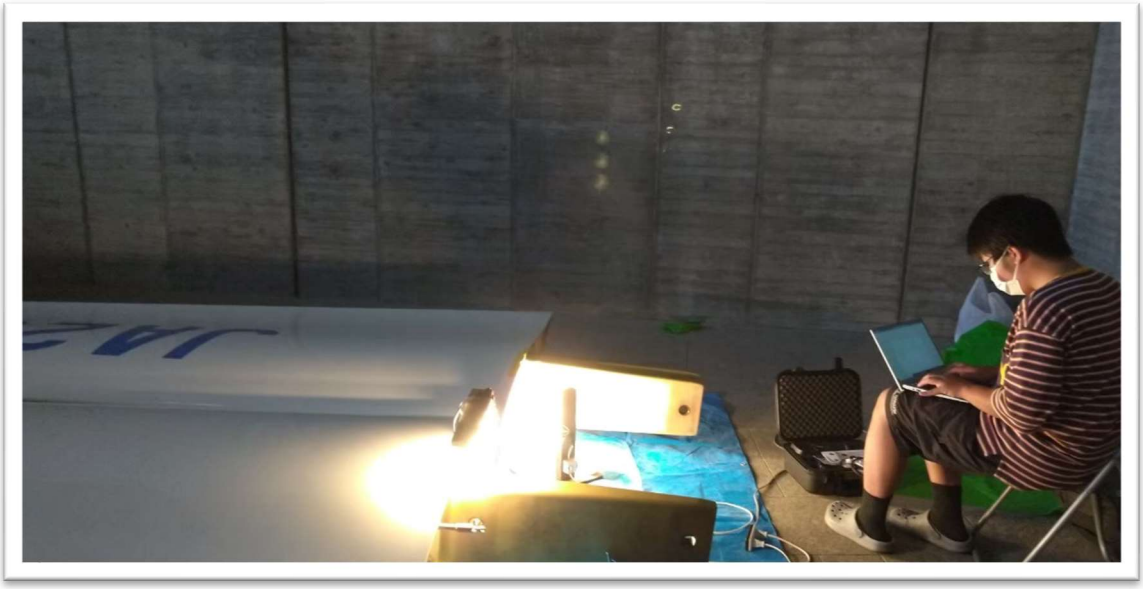
活動風景@2021

4 月に行われたグランドガイダンスの様子。たくさんの新入生が来てくれました！

8 月九大合宿の様子。
天気はいいですがマスクをつけながら作業するのはかなりつらいです。

9 月に west 駐車場にて実施した整備作業。初の試みでしたがうまくいきました。

10 月にも実施した整備作業。朝までの監視が必要で、眠気との戦いでした。編集者も参加しましたが、作業終了後家で泥のように眠りました。



10 月合宿の様子。雲がかなり低く天気も悪めでした。
この後宿舎にゲジゲジが出た模様。

11 月合宿の様子。参加人数が多いため九工大の ask21 と 2 機体制で実施しました。悪天候によりろくに飛べなかったり、風の影響でピストチェンジを繰り返したりした日も

ありましたが、それもまた経験になったと思います。

編集後記

昨年度に続きまして今年度も Thermik を発刊することができたのは、部長先生、監督をはじめご寄稿くださった部員の方々、そして弊誌をご覧いただいております OB・OG の皆 様のおかげでございます。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

さて、2021 年度は昨年度の活動報告を見比べていただければわかる通り、去年よりは遥かに活発に活動することができました。特に後半ではほぼ本来のペースと変わらないくらい合宿が実施できたと思います。しかしながら 2022 年に入ってからまた七大戦の中止など雲行きが怪しくなってきています。せめて来年度の新入生に影響の出ないように終息してくれることを切に願うばかりです。

そんな中ですが部員たちのやる気は皆様のご協力もあり、そがれていないようです。コロナウイルスが終息した時には自家用免許の取得、大会等での記録向上を目指して活動できるように部員一同これからも頑張っていきたいと思います。これからも変わらぬご支援のほどよろしくお願いいたします。

また、Thermik に関してのご感想はじめご要望、ご意見ございましたら下記までよろしく お願いいたします。

これからの九州大学航空部のさらなる発展を切に希望しつつ、結びの言葉とさせていただきます。

2022 年　1 月 20 日
編集　　青木　海成

ご支援振込先【ゆうちょ銀行 01790-2-126772 九州大学航空部 OB 会】

連絡先：青木海成 TEL：080-6893-7094 E-mail：aokikaisei.quac@gmail.com

九州大学航空部